

立ち止まって考えてみる。

田丸 あけみ

早いもので、今年も残すところ、あと2ヶ月となりました。

先月のアトムフェスティバルでは、準備や片付け等のご協力ありがとうございました。

フェスでの子ども達の感想は、4,5歳児のページに載せています。是非、ご覧下さい。

先日、友人と話をする機会がありました。

友人は、我が子が“自分の気持ちを表現しない”事や“自分の気持ちを相手に伝えにいかない”事に強い不安があったようです。話をしていくうちに、その友人自身も自分の幼少期は、なかなか自分の思いを表現できない子だったそうです。「そんな自分が自分なんだ」と親にわかってほしかったけど、わかってもらえなかった事がしんどかったと話してくれました。

私はその話を聞きながら、「自分で自分の事を良しと思えていないのでは？」と投げかけてみました。すると、「そうかもしれない。自分の事を肯定出来ていないから、そんな自分に似ている我が子に、もっとこうなってほしいという思いが強いのもかもしれない」「我が子と自分は違う人格なのに、そこをダブらせて考えている自分なんだ」と自己分析していました。

色々と話をする中で、友人は「まず自分の育ちも含めて、自分を知ることが大事なのかもしれない。その中から見えてくるものがあるのかもしれない」と言っていました。

大人になった私たちは、幼少期から、自信や達成感という言葉をいつも先生や周りの大人に言われていたように思います。でも、なぜ大人になった今、「自信をつける」「達成感を育む」と言われ続けたにも関わらず自己肯定感が育まれず、自己否定が大きく比重を占めている大人が多いのでしょうか？そこをみんなで考え続ける事が大事なのではないかと思うのです。

子どもは転んでも、転んでも何かを掴んで起き上がる力を持っていると信じてあげ、大人は子どもを見守り、話を聞いてあげる事で十分ではないかと思います。そして、親は、色々な価値観の人と話をしながら、今まで自分になかった視点を増やし、考え方の幅を広げていく。対話の中から、自分の育ちも振り返りながら、立ち止まって考える事も大事な時間だと感じています。

“親”という文字は、“木の上から立って見る”と書きますよね。本当にその通り、見守る事しかできないなと、私も親の一人としてしみじみと思うこの頃です。

～お知らせ～

(11月7日)

アトムの給食でお世話になっているあみもとさん(魚屋)に来ていただき、3,4,5歳児対象に「魚の解体ショー」を行います。日頃から当たり前前に食べている魚ですが、魚にも命があり、その命を頂いているのだという事を知る事を目的に行います。

(11月14日)

郵便局員の方に出張郵便局で来ていただき、4,5歳児対象に、ポストや郵便物など郵便に関わるお話をさせていただきます。